

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3873400216
法人名	(有)たんぼぼ介護サービス
事業所名	くま安心館グループホーム
所在地	上浮穴郡久万高原町久万540-3
自己評価作成日	平成28年6月5日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成28年6月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

暖かい雰囲気の中、入居者9名それぞれの方が、その人らしく穏やかに生活できるよう、日々の生活に努めています。職員は常に向上心をもちより良い介護を目標に共に生活しています。また、皆の楽しみである食べること、それぞれの工夫を凝らしたメニューで残色も少なく、おいしいと好評です。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

「自宅に帰りたい」と希望する方と一緒に自宅までドライブしたり、泊まりや日帰り自宅に帰ることも支援している。利用者の自宅がある地区から敬老会の案内があり、参加できるよう職員が付き添っている。馴染みの美容室の利用を希望する方には、職員が付き添い、関係を続けられるよう支援している。「自宅に帰りたい」と言う利用者の場合、家族に「家族さんの存在は安定剤ですよ」と伝えて、電話で話す機会を作っている。
 県外の家族が事業所に泊まり、職員と一緒に看取ったような事例がある。状態が良くないような時には、医師も事業所に泊まって協力してくれている。「最後まで好きなタバコが吸いたい」という利用者があり、介護計画に採り入れて希望に沿い、支援した事例がある。

・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等サービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目：28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 くま安心館グループホーム

(ユニット名)

記入者(管理者)

氏名

露口 理江

評価完了日

28年 6 月 5 日

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 事業所の理念は理解しやすいものとし、日々の業務を行う上で職員共通の介護の指針となっている。また、自分を置き換え、してほしい事、してほしくない事、確認の意味でミーティングではなしあっている。 (外部評価) 「まごごろサービス・やさしい介護」という理念のもと、介護理念を「私たちは安心して安全な生活を提供します。私たちは利用者の立場になりその人らしさを大切にします」とつくり、居間の入口に掲示している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 運営推進会議やクリスマス会、その他の行事には地域の方に参加していただいている。また、散歩で出会う近所の方との短い会話も心がけている。昨年は避難訓練に多くの地域住民に参加していただいた。 (外部評価) 地域の夏祭りや公民館祭りに出かけて地域の方達と交流できるよう支援している。小学校の運動会に毎年招待されており、利用者は宝拾いに参加している。事業所で行うクリスマス会には、地域の方が参加しており、出し物を披露してもらっている。利用者と職員も歌や踊りを披露している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 運営推進会議を通じて、地域住民や、民生委員、また婦人会との交流をもち、一緒にお茶をしたり、会話する機会をもつように努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 運営推進会議では、利用者の近況報告・行事報告を行い、意見交換している。地域住民より、組の奉仕作業の日に避難訓練をしたら、と言う意見をいただき、お願いしたところ快く受け取られ、多くの参加をしてもらえた。今年も町内会の総会に参加したところ、予定に組み込まれていた。</p> <p>(外部評価) 会議には、町職員、地域包括支援センター、民生委員、介護相談員、警察職員等の参加がある。家族には、来訪時に口頭で案内しているが、参加につながらないことが多い。参加者から看取りや重度の方の外出について質問があった際には、管理者が支援について説明した。ミキサー食の試食会を行った際には、「割と食べられる」と感想があった。外部評価結果は、評価表をコピーして見られている。</p>	<p>会議の目的等も踏まえて、利用者や家族の参加を働きかけてほしい。</p>
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 役場、包括支援センターの職員は、毎回参加してもらっていて、運営上困ったことや、法令上不明なことなど指導していただいている。毎年のクリスマス会の出し物も恒例行事となり、工夫をこらして参加してくれている。</p> <p>(外部評価) 月2回、介護相談員の訪問があり、利用者の話を聞いたり、行事に参加してもらうこともある。毎月1回、社協からお話ボランティアや婦人会等の訪問があり、利用者と一緒にクッションや焼餅づくり等して交流している。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 身体拘束ゼロを目標に、研修に参加したり、スタッフミーティングで確認している。時に、自分が介護されるとしたら、との問いかけを行い、職員それぞれの再確認を行っている。</p> <p>(外部評価) 訪問調査時、玄関は施錠せず出入りは自由となっていた。外部研修で身体拘束についても勉強しており、参加した職員がミーティング時に報告を行っている。職員で「私が介護されたら」というテーマで意見を出し合い、利用者の立場に立ったケアを行うことを再認識している。転倒予防のために夜間のみ2名の利用者にセンサーマットを使用している。夜間、ベッドからの立ち上がり転倒の危険性がある方には、ベッド下にマットレスを敷き安全確保している。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 研修には多く参加するよう努めている。その研修内容をミーティングで発表しみんなで勉強している。無記名で、してほしくない介護のアンケートを行った。初心に返り、日々の介護を改めて考える機会となった。虐待の防止につながるため、今後も検討している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 地域包括主催の研修会に参加した。現在も1名の方が制度を利用している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 管理者、ケアマネが必ず訪問し面談を行っている。また本人、難しい場合は家族の方に安心館の見学をお願いしている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 推進会議を通じて、意見など話し合っている。現在は家族の訪問も多くなっており、その時に今の状態を報告し、会話する時間を作り家族の要望を聞きだせるよう努めている。 (外部評価) 3ヶ月ごとに発行する事業所便りで、日常の暮らしぶりや身体状況、参加した行事、ホームからのお知らせ、職員の移動等を報告している。便りが来訪のきっかけとなる家族もある。家族来訪時には、利用者の様子を報告し、「～はどうしましたか」と相談しながら支援に取り組んでいる。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価)</p> <p>管理者は月に1回本社のミーティング参加し、職員ミーティングは月に1回夜間に行っている、職員ミーティングは、お茶やお菓子を食べながら柔らかい雰囲気で行い、職員が意見を出しやすいようにしている。また、日々の業務の中でも、意見を出してくれる職員も多い。</p> <p>(外部評価)</p> <p>法人は、資格取得や外部研修参加を推進しており、研修には出来るだけ全員が月1回参加できるよう取り組んでいる。月ごとの利用者の誕生日会時には、誕生月の職員も一緒にお祝いしている。職員の誕生日には、法人代表者からプレゼントがある。</p>	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価)</p> <p>勤務体系、勤務時間は、相談に応じ対応してもらっている。社会勉強も必要と、県外研修にも参加させて貰っている。利用者の誕生日会と同時に、職員も該当者はお祝いをして貰っている。</p>	
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価)</p> <p>研修には積極的に参加するようとの指示があり、県内外の研修に参加している。参加は勤務扱いで、参加しやすい体制になっている。</p>	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	<p>(自己評価)</p> <p>全国のグループホーム大会に毎年参加しており、他県の介護施設職員と交流し、良い刺激を受けている。又、町内の施設の職員の交流をかね見学、勉強会を検討している。</p>	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価)</p> <p>初回から専門用語を使用せず、分りやすい言葉で会話をするよう努め、コミュニケーションをとりながら、本人と良い関係を築く事ができるよう職員全員で意識して働きかけている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入所前に面会、安心館の雰囲気を見て頂き、本人が在宅で生活されていた生活リズムで過ごしていただけるよう環境作りと情報収集につとめている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 排泄、食事、入浴について自立度を情報収集し、出来ることはしてもらえよう支援し、本人の意思も尊重しながら出来ないことを支援している。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 洗濯物をたたんでもらったり、料理の下ごしらえの手伝いを出来る範囲でして貰っている。終わった後には必ず「ありがとう」を伝えている。いろんな役割をさせていただき達成感を味わっていただくよう支援している。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 帰宅願望がでて、夜間眠れなかったり、トイレの回数が増えた等の状態の時、家族の面会で改善される。事情を細かく説明し職員と家族で本人を支えあいながら良い関係が築けている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 敬老会や地域の行事には多く参加している。そこで知人に会い会話がはずむ事がある。入所者の子供の友達も顔を見に来てくれるなど、良い関係を継続できている。 (外部評価) 「自宅に帰りたい」と希望する方と一緒に自宅までドライブしたり、泊まりや日帰りで自宅に帰ることも支援している。利用者の自宅がある地区から敬老会の案内があり、参加できるよう職員が付き添っている。馴染みの美容室の利用を希望する方には、職員が付き添い、関係を続けられるよう支援している。「自宅に帰りたい」と言う利用者の場合、家族に「家族さんの存在は安定剤ですよ」と伝えて、電話で話す機会を作っている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 発語が出にくい利用者や、他の利用者の会話には職員が補助的に入り意思伝達がスムーズに行えるよう努めている。またソファから車椅子に移乗介助中におしりを押そうとしたり、「よいしょ」と掛け声をかけてくれたり、微笑ましい場面に出会うことができる。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 昨年看取りを行った男性の奥さんが、来館して下さり、元気そうな様子で、安心すると同時に、あの頃を懐かしくお話ししてきた。	
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 夕方、パジャマに着替える習慣がなかった方には強制はせずに、こえかけし、本人の意向にまかせている。また、会話が出来ない方も、日々関わる中で、その表情で気持ちを読み取ることができるようになってきている。 (外部評価) 会話が難しい利用者の思いを探るために、かかわりを多く持つよう取り組んでいる。食事介助時、口の開け方で好みが変わったり、泣くような様子についても嬉しいのか、辛いのか理解ができるようになってきたようだ。利用者の情報は「課題分析表」にまとめており、要介護認定更新時や状態変化時に更新している。利用者、家族の言葉をそのまま記入している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 10時、昼食、3時は、業務を中止し利用者と一緒に過ごすようにしている。それによって多くの会話が出来、その何気ない会話から以前の生活歴や環境を把握できるようになっている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 利用者の生活リズム(起床・就寝・食事の時間)にあわせた対応を行っている。起床時間が早い方は、お茶や牛乳など飲んだ後洗濯物をたたんでくれたり、起床後すぐに食事を摂り難い方は、新聞を読んでから朝食と、それぞれのペースで過ごされている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価)	
			本人と寄り添う時間を持ち、希望や悩みを速やかに反映する事ができるよう、ミーティングを通じて職員で情報を共有し、行動計画を1ヶ月ごとに見直している。	
			(外部評価)	
			介護計画の実施状況は、「ケアプラン行動計画」に毎日○△等の記号で記録し、毎月の職員ミーティング時に話し合っている。計画の見直しは、6ヶ月ごとに行い、案を家族に提示して意見を出してもらっている。食事介助が必要な利用者には、「なるべく自分で食べる事を優先に」という支援内容が挙げられていた。	得た情報を介護計画につなげて、利用者個々が本人らしく暮らせるような介護計画の作成に取り組んでほしい。利用者の持っている力や、資源を活かした計画作成に工夫してはどうか。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価)	
			個人の介護記録、管理日誌を活用しミーティングで話し合い介護計画の見直しに活用している。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価)	
			手足の拘縮予防、悪化予防の為、外部より訪問マッサージを週2回実施。職員の見守り介助により、歩行器を使用して歩行訓練を実施している。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価)	
			婦人会の園芸・地域の方のお話ボランティア・手芸など利用し楽しんでいただいている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) かかりつけ医の往診が定期で月に2回、また急変時には24時間対応で往診して貰える契約をしている。急変時以外でも心配な事はいつでも相談でき、職員、本人、家族も安心している。	
			(外部評価) 専門医の通院時には、職員が付き添っている。毎日のバイタルサインを医師に報告して話し合い、減薬につながったような事例がある。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価) 体調の変化があった時は記録に残しバイタル・排泄・水分の摂取量報告し往診してもらっている。	
			(外部評価)	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 病院関係者、家族と密に連絡をとるように心がけている。病院の看護師には知り合いが多く、勤務時間以外にも連絡がとれる体制ができています。	
			(外部評価)	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 昨年は4名の看取りを行った。体調の変化を家族には細かく伝え、また医師からも病状の説明をおこなっている。最初は重度化してきたら病院を希望していた家族もここで何年か過ごすうちに最後までここでお願いしたいと、変わってくることもある。送った後の反省会には主治医も参加していただいている。	
			(外部評価) 県外の家族が事業所に泊まり、職員と一緒に看取ったような事例がある。状態が良くないような時には、医師も事業所に泊まって協力してくれている。「最後まで好きなタバコが吸いたい」という利用者があり、介護計画に採り入れて希望に沿い、支援した事例がある。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 急変時には、主治医・管理者と連携し速やかに対応できるようミーティングで確認している。また、救命講習を受講している。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 町内会清掃を年に1回おこなっているが、その作業終了後に沢山の参加を得て避難訓練を行っている。また地震の後など地区の防災の方が異常がないか訪問してくれている。	
			(外部評価) 地区清掃後を捉えて、地域の方の参加を得て消防立ち合いのもと、避難訓練を行っている。訓練は、夜間の火災を想定して行い、地域の方もシートや担架(地域の備品)を使用した訓練を行った。訓練後、地域の方から「拡声器があるとよかった」との意見があった。いざという時には、近所に住む地区防災担当者が駆け付けてくれることになっている。備蓄は卓上コンロやストーブ、一週間分の食料を用意している。	
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 利用者が自分の生き立ちや、経験談を話す時は、耳を傾けうなずき熱心に聞くようにしている。職員にとっても参考になり人生の教科書だと感じる。また、トイレの声かけなどは、そっと行うようにしている。	
			(外部評価) 利用者が同じ話をするような場合も、職員は「そうだね」と同調しながら、ゆっくり話を聞くことに取り組んでいる。トイレの声かけ時には、利用者の耳元でさりげなく行っていた。食事やおやつ時間には、職員も一緒に座っておしゃべりしながらゆっくり過ごしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 何かを行う時は必ず声かけし、本人に決めてもらうように努め、職員の決め付けにならないようにしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 時間に縛られることなく生活できるよう、その都度お尋ねし対応している。それによって自分のペースで穏やかに生活できるようになっている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 自分で服を選ぶ利用者には、就寝前に選んでもらっている。髪のカットは定期的に訪問理容を利用している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 特に食べたい物をリクエストしてもらったり、季節(旬)の物を取り入れたメニューになるよう努めている。じゃが芋の皮剥ぎ、つくしの袴取りなど、出来ることは皆で作業している。 (外部評価) 食材は、道の駅等で購入した地元産の旬のものを使用している。刺身が好きな方が多く、メニューに採り入れている。ミキサー食の方は、食材そのものの味が感じられるよう工夫している。飲み込みの悪い利用者は、食事前に口腔体操を行えるよう支援している。食後は、全員口腔ケアを行い、職員は仕上げや入れ歯の消毒等の支援を行っている。栄養面について職員で話し合っており、体重が増えた方があれば、話し合って主食の量を減らし、野菜を増やす等、工夫して支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事、水分摂取量、排泄時間を記入できる個別の一括表を活用しており、職員で情報を共有し、異常があれば、主治医に相談、往診していただける為、柔軟に対応できている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) ご自分で出来る方も、少し仕上げをお手伝いしたり、歯や舌の状態によってケアの仕方を変え、対応している。又、口腔内に食物が残っていないか、薬が服用できているか確認することで、口腔内の確認もできている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	<p>○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている</p>	<p>(自己評価) 失禁が見受けられた場合、定期的に声かけを行い、排泄の状態を記録し、パターンを掴むようにしている。現在、2名の利用者が、日中は布パンツ使用になっている。</p> <p>(外部評価) 「布パンツで過ごしたい」という利用者に対しては、早めの声かけを行い、失敗なく継続できるように支援している。ある事例では、パッドを使用することが嫌で紙おむつをちぎっていることが解り、失禁パンツに変更して支援し、徐々に布パンツ使用に改善できたような事例がある。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 朝の空腹時に牛乳を摂取して頂いたり、朝食と昼食の間に運動する時間を取り入れている。又、水分摂取量が少ない方には記録をとり、なるべく飲んで頂けるよう、声かけをしている。</p>	
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>(自己評価) 入浴の時間、日にちは決めていない。体調や状態により、入浴してもらっている。時には入浴剤を入れ、温泉気分を味わえるようにしている。</p> <p>(外部評価) 週2～3回入浴できるように支援している。重度の方も、職員2人で介助し、湯船で温まれるように支援している。入浴に気が進まない方には「足を洗いましょう」と声を掛け、浴室に誘うと入浴につながる場合がある。</p>	
46		<p>○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>(自己評価) 夜間不眠を訴える方も含め、日中、アクティビティや軽体操にお誘いし、活動的に過ごす支援をしているが、希望により、服薬する等、個別に支援している。就寝前に空腹を訴えられた利用者さんには、特別なことが無ければ、軽食を摂ってもらったりして個別に支援している。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 処方薬を個別に管理し、便秘や血圧の変動等、主治医の指示により、定期外の薬(舌下錠、下剤、解熱剤)服用を臨機応変に対応している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 食事の下ごしらえ(野菜の皮剥ぎ、筋取りなど)を手伝って頂き、旬を通して季節を感じて頂く。又、一緒に買い物へ出掛け、好きなおやつを選んで頂いて、おやつの時間に皆と頂いたりしている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 近所の神社へ参拝しに行ったり、希望があれば、職員と一緒に生活必需品を購入しに行ったり、個別に外出が出来るよう支援している。又、外出が難しい時には、庭で日光浴など行っている。	
			(外部評価) 季節に花を見に出かけたり、動物園や双海町の海を見に出かけられるよう支援している。日常的には、近所を散歩したり、神社にお参りに行ったり、買い物に行ったりしている。重度の方は体調を見ながら、近所を散歩したり、庭に出て日向ぼっこができるよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) お金は、生活必需品等の購入の為、管理させて頂いている。本人の希望があれば、対応できるようにしている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 希望があれば、いつでも電話をかけたがり話ができるよう、支援している。手紙については、希望があれば対応できるが、安心館だよりを3ヶ月に1回程度お出ししている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価)	
			共用の空間は、支障の無い限り毎日清掃するようにしている。四季に応じてリビングの装飾を変えている。その他、クリスマスツリー、お雛様を飾っている。	
			(外部評価)	
			雨のしずくやかたつむり、アジサイ等の飾り付けをしていた。居間のテレビ前には、2~3人掛けのソファを2つ置き、調査訪問時には、団欒したり、大きい風船でバレー対決を行っていた。廊下にもソファを置き、休憩したり1人の時間を過ごしたりできるように配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価)	
			テレビが観られるようソファを配置し、好きなききに観ることが出来る。人形を可愛がる利用者さんには、隣に人形を座らせたりして、自由に過ごす事が出来ている。時には、少し離れた廊下のソファに1人座り、過ごされる方もいる。	
			(外部評価)	
			自分が長年大切にしているぬいぐるみや人形等、自分の好きなどところに置いて頂いたり、ご家族から頂いたものを飾ったり、心地よく過せるよう、配慮している。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価)	
			大事にしている人形と一緒に寝る方や、バッグをベット上に置き自分で管理する方もある。タンスに衣類のイラストを貼って中身が解かるようにしており、利用者は自分で洗濯ものを片づけたり、洋服を選んだりしている。	
			(外部評価)	
			居室の入り口には動物の絵を飾ったり、目印のリボンを付けたりと、本人に分りやすいように工夫している。立位にふらつきがある方には、ベッド下にセンサーマットを配置し、職員が見守り等、速やかに対応できるようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価)	